

リハビリテーション科

リハビリテーション科について

リハビリテーション科では、**理学療法士 9 名、作業療法士 3 名、言語聴覚士 2 名**の計 14 名で**入院・外来・訪問のリハビリテーション**を行っています。臥床により身体機能を弱らせず早期回復するために、**入院・手術の翌日にはリハビリを始め**、在宅復帰に向け**土曜・祝日も通常通りの週 6 日体制**で集中的なリハビリを行っています。1 階玄関に入ってすぐの場所に**開放感のあるリハビリ室**を設けており、ご家族は『**患者様が元気になっていく姿**』をご面会時に目の当たりにすることができます。また退院後の生活が安心して送られるよう『**訪問リハビリ**』にもお伺いします。



患者様とご家族のご要望にお応えできるよう、スタッフ一人ひとりが研修や学会発表等の自己研鑽に励んでいます。**手術や治療を受けたのち、新たな人生への一步を踏み出すお手伝いをさせていただくことが、私たちリハビリテーション科の使命です。**

リハビリテーション科の特徴

【施設基準と主な対象疾患】

運動器リハⅠ：大腿骨頸部骨折・変形性関節症・脊椎疾患など

呼吸器リハⅠ：肺炎・慢性閉塞性肺疾患など

脳血管リハⅡ：脳卒中など

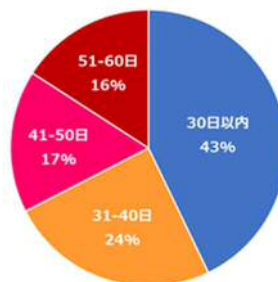
廃用症候群リハⅡ：内科疾患治療後の廃用症候群など

摂食機能療法：嚥下障害など

【リハビリテーションの実績（2017年）】

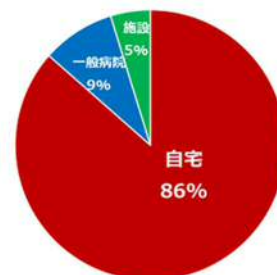


《疾患内訳》



《在院日数》

平均 34.1 日



《転帰先》

在宅復帰率 91.3%

【土曜・祝日も通常通りのリハビリテーションの継続を実現】

土曜・祝日が休みの場合、せっかくリハビリで向上した機能が低下してしまいます。土曜半日や祝日休みの施設が多い中、当院では**入院・外来・訪問とも土曜・祝日を含めた週 6 日間通常通りのリハビリテーション**を行っています。

【自宅を模したADL室】

ワンルームのお部屋をそのまま移設したようなADL室には、リビング、キッチン、トイレ、和室、物干しなど自宅生活に必要な練習ができる備品が揃っています。自宅に近い環境で数時間過ごしていただいたり、調理の練習をしたり、ご家族にトイレ介助の練習をしていただいたりと、退院が近づいた方に活用していただいています。



《ADL室》

【退院前訪問と訪問リハビリテーションで在宅復帰への支援体制も充実】

退院前には介護保険サービスの導入や、患者様と一緒にご自宅を訪問（**退院前訪問**）しての動作練習や住宅改修、ケアマネージャーなどの在宅スタッフの方々をお招きしての拡大カンファレンスを行い、安心して在宅生活へお戻りいただくためのお手伝いをさせていただいています。退院後もリハの継続が必要な患者様には、生活が安定するまで**外来リハビリ/訪問リハビリ**を当院からご提供します。



スタッフ紹介

構成人数（2019年6月現在）

14名（男女比4:10）

- ・理学療法士：9名
- ・作業療法士：3名
- ・言語聴覚士：2名

認定資格者（2019年6月現在）

- ・3学会合同呼吸療法認定士：2名
- ・心臓リハビリテーション指導士：2名
- ・専門理学療法士（神経）：1名

■科長 手塚 純一（理学療法士）

【略歴】

- 2002年3月 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院理学療法学科卒業
- 2002年4月 杏林大学医学部付属病院リハビリテーション室入職
- 2007年4月 川崎幸病院リハビリテーション科入職
- 2017年9月 さいわい鶴見病院リハビリテーション科異動

【認定資格】

- ・専門理学療法士（神経）
- ・心臓リハビリテーション指導士
- ・3学会合同呼吸療法認定士

【著書】

- ・脳卒中理学療法の理論と技術 第三版、メジカルビュー社、2019
- ・理学療法 MOOK22 急性期の脳卒中理学療法、三輪書店、2018
- ・極める！脳卒中リハビリテーション必須スキル、(株) gene、2016
- ・理学療法 NAVI “ここで差がつく” 背景疾患別” 理学療法 Q&A、医学書院、2016